

報道関係各位

うめきた先行開発区域プロジェクト 開発事業者 12社

N T T 都市開発株式会社	株式会社大林組
オリックス不動産株式会社	関電不動産株式会社
新日鉄興和不動産株式会社	積水ハウス株式会社
株式会社竹中工務店	東京建物株式会社
日本土地建物株式会社	阪急電鉄株式会社
三井住友信託銀行株式会社	三菱地所株式会社

一般社団法人グランフロント大阪 TMO

一般社団法人ナレッジキャピタル 株式会社 KMO

うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」

「多様な人々や感動との出会いが新しいアイデアを育むまち」実現にむけた取組み概要発表

■「アジア・世界のゲートウェイ」の玄関口に「パナソニックセンター大阪」が進出

■都会の喧騒を忘れて「お散歩」を楽しめる商業施設が誕生

■「ナレッジキャピタル」フューチャーライフショールームに参画する21の全テナント決定

■まちと来街者をつなぐ「コミュニケーション・プラットフォーム」の整備

大阪・うめきたにおいて現在工事中の、うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」を推進する開発事業者12社、並びに竣工後のまちの一体的な運営を担う一般社団法人グランフロント大阪 TMO（以下「TMO」）、及びまちの中核施設「ナレッジキャピタル」の企画運営を担う一般社団法人ナレッジキャピタルおよび株式会社 KMO は、2013年4月下旬の「まちびらき」を半年後に控え、まちの開発ビジョンである「多様な人々や感動との出会いが新しいアイデアを育むまち」の実現に向けた取組み概要を、下記の通り発表いたします。

「グランフロント大阪」という名称には、大阪の新しい玄関口に相応しい「世界に開かれた最前線のまちであり続けたい」という思いがこめられています。大阪・関西からアジア・世界へのゲートウェイとして、多様な人々の集積や交流、感動との出会いを通じて、このまちで生み出される新しいアイデアや多様なイノベーションにより、大阪・関西、さらには日本の成長・発展をめざします。

記

■「アジア・世界のゲートウェイ」の玄関口に「パナソニックセンター大阪」が進出

「アジア・世界のゲートウェイ」を標榜する「グランフロント大阪」の玄関口となる A ブロック地下1階から2階の3フロアに、パナソニック株式会社が運営するショールーム「パナソニックセンター大阪」の進出が決定しました。

「パナソニックセンター大阪」は、最新商品の展示にとどまらず、セミナー・ワークショップの開催、住まいのトータルソリューション提案等を通じ、新しいライフスタイルが見つ

かる体験・参加型ショールームとなる予定です。

■都会の喧騒を忘れて「お散歩」を楽しめる商業施設が誕生

A・B ブロック低層部の商業施設『グランフロント大阪 ショップ&レストラン』のキーコンセプトは「お散歩」。大阪・梅田という大都会にありながら、豊かな水と緑に囲まれた環境で、お散歩をしながらゆったりとお買い物やお食事を楽しんでいただける施設が誕生します。

また、都心部のターミナル立地としては日本最大級という規模（店舗面積：約 44,000 m²）を活かし、関西旗艦店とこだわりショップの集積した物販ゾーンや、本物の「味」が楽しめる飲食・食物販ゾーンなど、バラエティー豊かな 266 店舗の入居を予定しています。

■一步先の未来を提案する企業と生活者のコミュニケーションの場

「フューチャーライフショールーム」に参画する 21 の全テナント決定

感性と技術の融合により新たな価値を創出する複合施設「ナレッジキャピタル」の 1 階から 6 階に位置する「フューチャーライフショールーム」には、21 の企業や大学が参画します。買うだけの店舗、見るだけのショールームではなく、生活提案や発見、学びなどワクワクさせる体験を提供し、来街者が参加できるさまざまなワークショップやイベント、セミナーなどたくさんのアクティビティを年間を通じて展開します。

「人」のかたちをモチーフとしたナレッジキャピタルのロゴマークも新たに決定しました。ナレッジキャピタルでは、場[施設]と機能[人的支援]を活用させ、産業創出、文化発信、国際交流、人材育成を実現していきます。

■まちと来街者をつなぐ「コミュニケーション・プラットフォーム」の整備

まちの運営組織 TMO が、まちと来街者をつなぐ幅広い「コミュニケーション・プラットフォーム」を整備し、商業施設やフューチャーライフショールーム等、まちに訪れる来街者や在勤者、在住者とともにまちを育てる、新しいまちづくりに取り組んでいきます。

まちのファンを広く募る入り口として、匿名でファン登録を行う「(仮称)まちサービス」を創設します。その中から、新たな才能の発掘を通じて、このまちから新しい文化・芸術を発信する枠組みとして「(仮称)キャスト制度」を設け、TMO が認定した団体や人々に対してまちの公開スペースを利用する権利を付与する等、このまちを舞台に、それぞれの夢をかなえる活動を支援することにより、新たな賑わいを創出していきます。

また、「グランフロント大阪」を一つのメディアとして捉え、まちの公開スペースをさまざまな企業や来街者の新たな“情報発信の場”として活用していただくことにより、大阪の新たな玄関口に相応しい、魅力あふれるまちを目指していきます。

以上

(添付資料)

別紙 : 「グランフロント大阪へのパナソニックセンター進出について」(開発事業者 12 社)

別紙 : 「都会の喧騒を忘れて「お散歩」を楽しめる商業施設『グランフロント大阪 ショップ&レストラン』がオープン」(開発事業者 12 社)

別紙 : 「フューチャーライフショールームに参画する 21 の全テナント決定」
(一般社団法人ナレッジキャピタル 株式会社 KMO)

別紙 : 「まちと来街者をつなぐ「コミュニケーション・プラットフォーム」の整備」
(一般社団法人グランフロント大阪 TMO)

(ご参考)

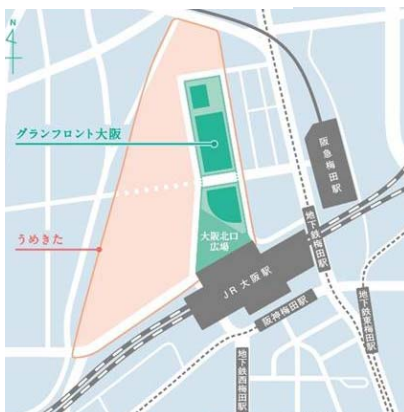
【うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」について】

梅田貨物駅を中心とする約 24ha の「うめきた」(都市再生緊急整備地域内)において、2005 年 6 月に先行開発区域(約 7ha)として UR 都市機構が「大阪駅北大深東地区土地区画整理事業」に着手、地権者である UR 都市機構と鉄道・運輸機構が開発事業者を募集。2006 年 5 月、11 月に開発事業予定者が決定され、2007 年 6 月に土地の引き渡し完了。2008 年 2 月に「都市再生特別地区」として都市計画決定。2010 年 3 月に新築工事着工し、2013 年 3 月末竣工、同 4 月下旬に開業予定。オフィス、商業、ホテル・サービスレジデンス、分譲住宅、ナレッジキャピタルにて構成。

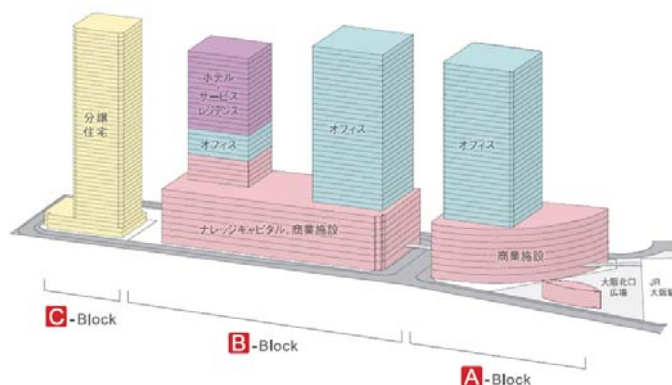
(全景パース)



(位置図)



(用途構成図)



報道関係各位

うめきた先行開発区域プロジェクト 開発事業者 12社

NTT都市開発株式会社	株式会社大林組
オリックス不動産株式会社	関電不動産株式会社
新日鉄興和不動産株式会社	積水ハウス株式会社
株式会社竹中工務店	東京建物株式会社
日本土地建物株式会社	阪急電鉄株式会社
三井住友信託銀行株式会社	三菱地所株式会社

うめきた・グランフロント大阪へ

「パナソニックセンター大阪」の進出が決定しました

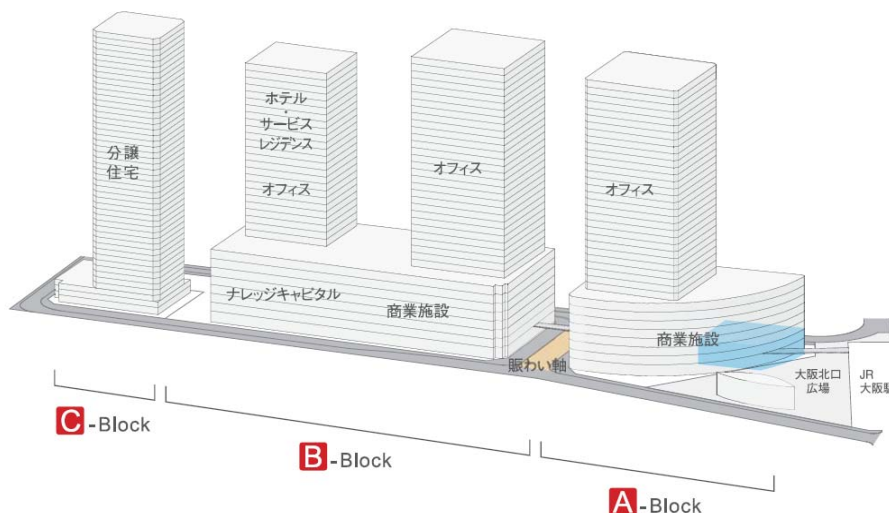
うめきた先行開発区域プロジェクト 開発事業者12社が開発中の「グランフロント大阪」(2013年4月下旬 まちびらき予定)におきまして、パナソニック株式会社(本社:大阪府門真市、社長:津賀一宏)運営のショールーム「パナソニックセンター大阪」が進出することが決定しましたので、お知らせ致します。

グランフロント大阪では、「アジア・世界のゲートウェイ」を目指してまちづくりを進めてまいりましたが、その玄関口となる場所で、パナソニックブランドのグローバル情報発信拠点となるコーポレートショールーム「パナソニックセンター大阪」が展開されます。

「パナソニックセンター大阪」は、最新商品の展示にとどまらず、セミナー・ワークショップの開催、住まいのトータルソリューション提案等を通じ、新しいライフスタイルが見つかる体験・参加型ショールームとなる予定です。

「パナソニックセンター大阪」出店概要

- ・ 出店場所: Aブロック 地下1階・1階・2階
- ・ 出店規模: 約5,000m²
- ・ 開業時期: 2013年4月下旬(まちびらきと同日の予定)



以上

報道関係各位

うめきた先行開発区域プロジェクト 開発事業者 12 社

N T T 都市開発株式会社	株式会社大林組
オリックス不動産株式会社	関電不動産株式会社
新日鉄興和不動産株式会社	積水ハウス株式会社
株式会社竹中工務店	東京建物株式会社
日本土地建物株式会社	阪急電鉄株式会社
三井住友信託銀行株式会社	三菱地所株式会社

2013年4月下旬、うめきた・グランフロント大阪に
都会の喧騒を忘れて「お散歩」を楽しめる商業施設

『グランフロント大阪 ショップ&レストラン』がオープン

～都心部のターミナル立地では日本最大級、266の店舗が集結～

うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」の商業施設につきましては、名称が、『グランフロント大阪 ショップ&レストラン』に決定し、2013年4月下旬にオープンすることが決定いたしました。

施設の詳細については次のとおりです。

1. 名称

グランフロント大阪 ショップ&レストラン

2. キーコンセプトは「お散歩」

西日本最大の商業エリアである大阪・梅田には、多くの商業施設が集積しておりますが、便利で効率的なビルの中や地下街を中心に展開されているため、ゆっくりと時間をかけてお買い物やお食事を楽しみたいというお客さまには、少しもの足りない空間となっております。

そこで『グランフロント大阪 ショップ&レストラン』では、従来の商業施設とは一線を画し、大阪・梅田という大都会、しかも大阪駅から連絡デッキで直結という好立地にありながら、都会の喧騒を忘れ、四季を感じながらゆっくりと「お散歩」を楽しめるような空間を創り上げました。

具体的には、施設内に、水景と豊かな緑に囲まれた屋外回廊や、屋上緑地を含めて全体で10,000㎡を超える広大な庭園、心地よい太陽光が差し込む吹き抜けを設けました。加えて、街の東西を貫くメイン動線であるケヤキ並木のストリート「賑わい軸」の屋外空間や施設内各所には、いつでも足を止めて、のんびりとくつろぎたくなるような合計15店ものカフェを配置。また、カフェ店舗のなかには、21時以降も営業する店舗も多く、昼だけでなく、夜もゆったりと「お散歩」が楽しめる空間を演出しています。



大阪北口広場



「販わい軸」



屋上庭園



屋外回廊

3. 「グランフロント大阪 ショップ&レストラン」の特徴

店舗面積・約44,000㎡を誇る「グランフロント大阪 ショップ&レストラン」は、都心部のターミナル立地としては、日本最大級の商業施設です。西日本随一のスケールの大きさと立地の良さを最大限に発揮し、大阪・梅田に新しい人の流れと賑わいを生み出します。

「ここだけ」に出会っていただくために ～旗艦店とこだわりショップの集積～

「グランフロント大阪 ショップ&レストラン」の店舗の特徴は、「ここだけ」と「本物」に出会えること。人気のショップは「関西旗艦店」として店舗を構え、ここにしかない品揃えで、ブランド・ショップの世界観を表現します。また、「関西発(関西発祥/オリジン)」「大阪初」はもちろん、「本物を届け続ける老舗」や「知る人ぞ知る名店」、「新進気鋭の個性派ショップ」など、こだわりの店舗が多数出店する予定です。さらに、「ここだけ」・「本物」なのはお店のスタイルや商品だけではありません。ホスピタリティあふれるスタッフが「お客様とモノとの出会い」や「新しい発見」を紡ぎ、心地よい時間とお客様それぞれの新たなスタイルを提案します。

本物の「味」を楽しんでいただくために ～老舗から日本初上陸まで～

77店舗もの飲食・食物販店舗が集積することも、本施設の大きな特徴です。「Aブロック上層階のレストランゾーン」には、全国各地の名店やレストランガイドに掲載されるグルメ店はもちろん、大阪地場の行列店も多数出店するなど、舌の肥えたお客様から老若男女さまさまのお客様まで楽しんでいただける36店舗のレストランが集積。「大阪北口広場地下の食物販ゾーン」には、日本初上陸から有名老舗まで17店舗の食物販が出店。テイクアウトはもちろん、併設のイートインコーナーでは水景を楽しみながらお食事を楽しむこともできます。また、Bブロック上層階には、「梅田の新しい遊び場」をテーマにしたレストランゾーンも登場するなど、いままでになかった新たな大阪の食文化の創出を目指します。

ターゲットは「ライフスタイル編集の達人」

ターゲットは「自らの感性や価値観で、自分らしいライフスタイルを編集し、日々を大切に過ごす人」。「年齢層」や「価格帯」にとらわれず、施設や店舗が提供する「感性価値」や「こだわり」に共感していただけるお客様をターゲットとしています。また、女性だけでなく、男性にも十分ご満足いただけるよう、ファッション店舗においてメンズ商品を取扱う店舗は、約40%を超える予定です。さらに出店業種の多様性も大きな特徴です。ファッション店舗：約40%、生活雑貨・インテリア店舗：約30%、飲食・食物販・サービス店舗：約30%の割合で店舗が構成され、お客様の「衣」「食」「住」「遊」それぞれの生活シーンにお応えします。

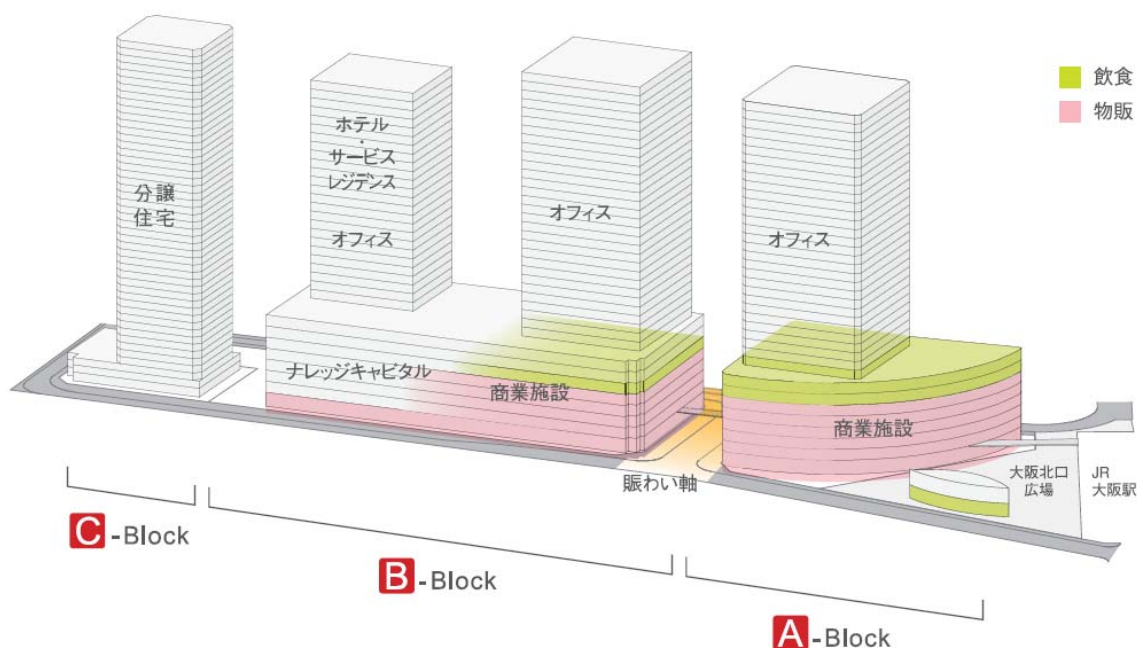
業種のパーセンテージは店舗面積の割合を示しています。

4. 施設概要

店舗面積：約44,000㎡（Aブロック・大阪北口広場：30,000㎡，Bブロック：14,000㎡）

店舗数：266店舗（Aブロック・大阪北口広場：208店舗，Bブロック：58店舗）

構成：Aブロック（地下1階～9階）、Bブロック（地下1階～6階）



5. 今後のスケジュール（予定）

2013年1月：全テナント名発表など



2012年10月3日

報道関係各位

一般社団法人ナレッジキャピタル
株式会社KMO

うめきた・グランフロント大阪「ナレッジキャピタル」
フューチャーライフショールームに参画する21の全テナント決定
～ナレッジキャピタルのロゴマーク決定～

2013年4月下旬に開業予定のうめきた・グランフロント大阪の中核施設「ナレッジキャピタル」におきまして、フューチャーライフショールーム（以下、FLS）に参画する21の全てのテナントが別紙の通り決定いたしました。

FLSは、感性と技術の融合により新たな価値を創出する複合施設「ナレッジキャピタル」において、さまざまな業種の企業や大学等が一步先の未来を提案し、生活者とコミュニケーションを行う空間です。21のFLS参画テナントは、ナレッジキャピタルの1階から6階に位置し、買うだけの店舗、見るだけのショールームではなく、生活提案や発見、学びなど、来街者をワクワクさせる体験を提供します。ナレッジキャピタルの特長である「参加性」を重視し、FLS各テナントでは、来街者が参加できるさまざまなワークショップやイベント、セミナーなどたくさんのアクティビティが年間を通じて展開され、企業と生活者が双方向の関係性を育みながら新しい価値を共創します。

また、ナレッジキャピタルのロゴマークが決定しましたので、併せてご案内いたします。

KNOWLEDGE
CAPITAL

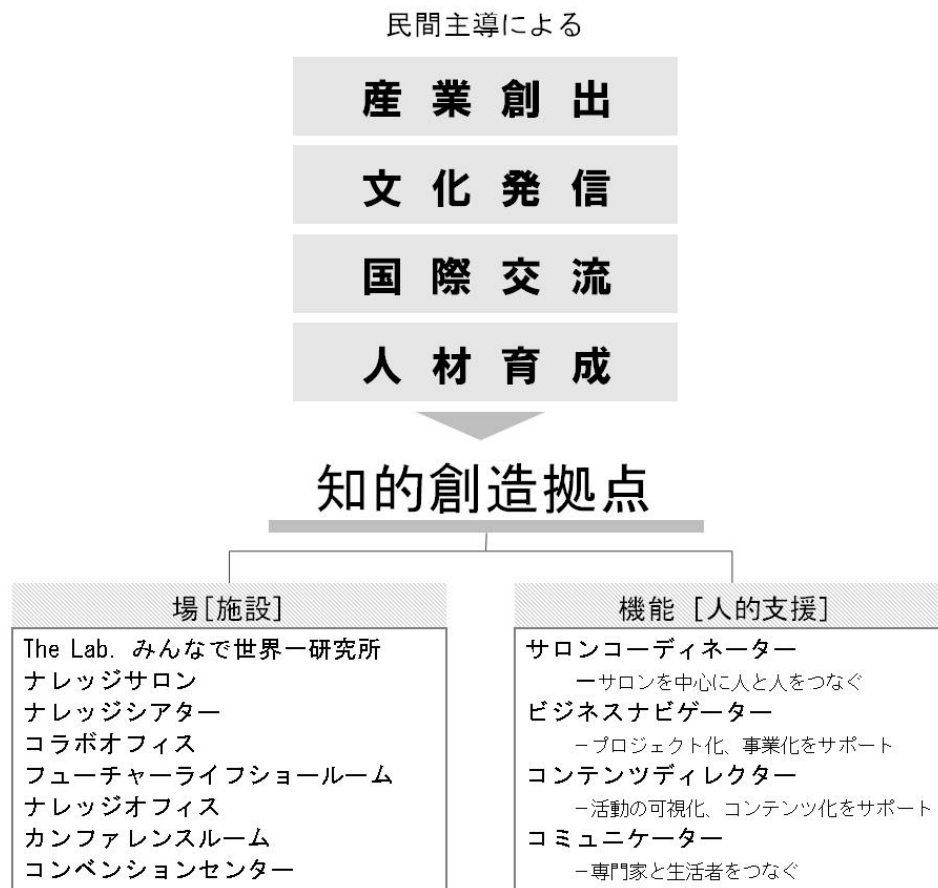
シンボルアイコンは
私(i)であり
人であり
イノベーションを表現しています。

ナレッジキャピタルの根源的な価値は人。
そして参加者する私(i)が主役の舞台で
生み出されるイノベーション。

形の異なる(i)の集まりは多様性を、
それが連なる姿は活動のバイブレーションを
象徴するロゴマークです。

ナレッジキャピタルでは、場〔施設〕と機能〔人的支援〕を活用させ、産業創出、文化発信、国際交流、人材育成を実現していきます。今年12月13日には大阪市中央公会堂にてプレイベントとして「ナレッジキャピタル アジア学生デジタルコンテンツフェスタ（仮称）」を開催し、まちびらきに向けた発信を行ってまいります。なお、本イベントの詳細につきましては、11月上旬（予定）に発表します。

以上



（ご参考）

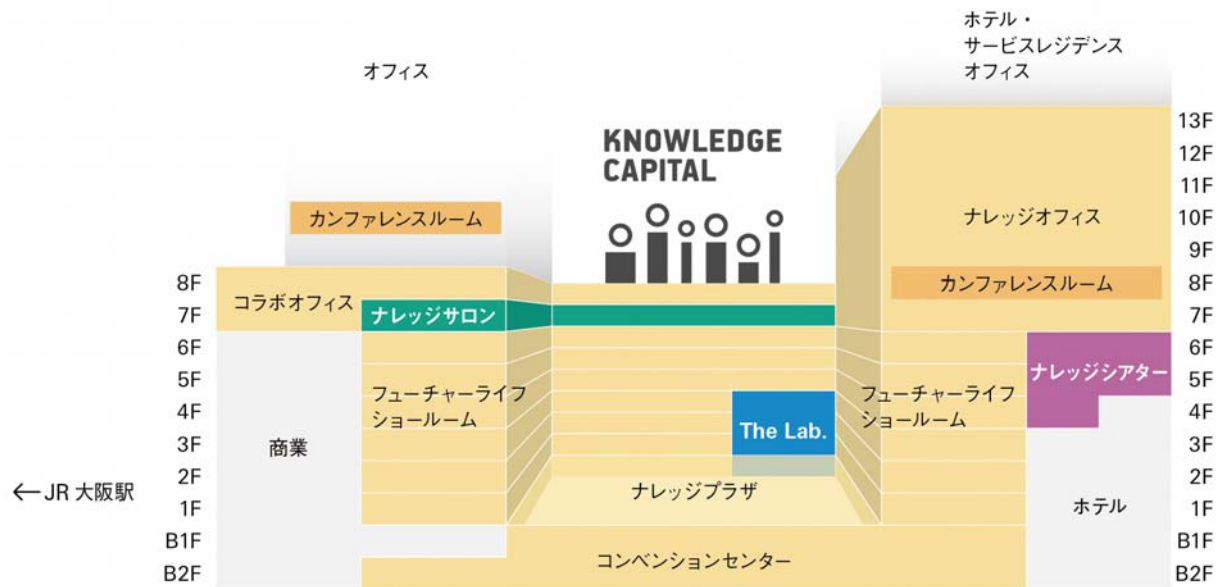
【ナレッジキャピタルについて】

2005年にナレッジキャピタル企画委員会より提言された「ナレッジキャピタル構想」に基づき、UR都市機構ならびに大阪市により開発事業者募集コンペを実施。現開発事業者が選定され、事業推進を行う。

ナレッジキャピタルは、「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を創出する複合施設として、多様な人々の交わりから、今までにない商品やサービスを生み出すことをめざす。一般社団法人ナレッジキャピタルならびに株式会社KMOがナレッジキャピタルの企画運営を担い、場〔施設〕と機能〔人的支援〕を活用させ、ナレッジキャピタルにおける産業創出、文化発信、国際交流、人材育成の実現を行う。

【ナレッジキャピタル施設概要】

- 所在地： 大阪市北区大深町ほか
うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」Bブロック
地下2階～地上8階（B南棟） / ～地上13階（B北棟）部分
- 延床面積： 約 88,200 m²



コラボオフィス



ナレッジサロン



ナレッジシアター



フューチャーライフショールーム



The Lab. みんなで世界一研究所



コンベンションセンター

フューチャーライフショールーム参画テナント一覧

(50音順)

アイ・ティー・シーネットワーク株式会社(ドコモショップ)
株式会社アシックス
株式会社Urge
エー・ビー・シー開発株式会社(ハウジング・デザイン・センター大阪)
株式会社エム・フロンティア(AppBank Store)
学校法人大手前学園
関西電力グループ
近畿大学
KDDI株式会社
株式会社好日山荘
コカ・コーラウエスト株式会社
サントリー酒類株式会社
積水ハウス株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社
ダイキン工業株式会社
日本サブウェイ株式会社
ピーロート・ジャパン株式会社
株式会社ボーネルンド
メルセデス・ベンツ日本株式会社
淀川キリスト教病院
ロート製薬株式会社

※一部のテナントの概要については、別添の参考資料をご参照ください。

報道関係各位

一般社団法人グランフロント大阪 TMO

うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」**「多様な人々や感動との出会いが新しいアイデアを育むまち」実現にむけた
まちと来街者をつなぐ「コミュニケーション・プラットフォーム」の整備****① まちのコミュニティ形成サービス ② イベントプロモーション事業 ③ 街メディア事業**

まちの一体的な運営組織として、本年5月に設立されました一般社団法人グランフロント大阪TMO（以下「TMO」）は、従来の“開発者側が主体となってまちを管理し、賑わいをつくる”という運営から一歩進んで、これからの時代の新しいまちづくりを目指します。

まちの在住者・在勤者・一般来街者とともに、まちを育てていきたいという考えにたち、「多様な人々や感動との出会いが新しいアイデアを育むまち」をビジョンに掲げ、まちと来街者をつなぐ幅広い「コミュニケーション・プラットフォーム」を整備していきます。

具体的には、まちに整備するユビキタス環境を活用した、まちと来街者との交流を育む「コミュニティ形成サービス」への取組み、並びに、まち全体を一つのメディアとして捉え、様々な企業や来街者の新たな“情報発信の場”として活用していただくことにより、魅力あふれるまちを育む「イベントプロモーション事業」、及び「街メディア事業」に取り組んでまいります。取組み概要については、以下の通りです。

記

1. まちのコミュニティ形成サービスの取組み**「まちにいる人々同士の情報共有や新たな関係づくりを支援するユビキタスの導入」**

- ・ まちのファンを広く募る入り口として、匿名でファン登録を行う「(仮称)まちサービス」を創設します。
- ・ このサービスに登録したファンの方々を対象に、まちにおける活動をユビキタス環境を通じて「ライフログ」を蓄積。その活動を街内に設置するデジタルサイネージに「見える化」し、その時々におけるまちの賑わいやまちの魅力を発信していくことにより、まちと来街者、来街者同士などの関係づくりを促進し、まちの新たな賑わい作りにつなげていきます。

「まちを舞台とした自己実現を支援する制度の導入」

- ・ 「まちサービス」の登録者の中から、新たな才能の発掘を通じて、このまちから新しい文化・芸術を発信する枠組みとして「(仮称)キャスト制度」を設け、TMOが認定した団体や人々に対してこのまちの公開スペースを利用する権利を付与する等、このまちを舞台として夢を叶える活動を支援することにより、新たな賑わいを創出していきます。
- ・ この制度を通じて、多彩な人々が集い、コミュニティを創出し、まちにいる人々とまちが共に成長することを目指します。

2. 新たな文化芸術発信拠点としてのイベントプロモーション事業の取組み

- ・ 広大な敷地面積を活かし、大阪駅前に立地する約 1ha に及ぶ「(仮称)大阪北口広場」や同広場に面した「(仮称)シンボル建物 2 階ホール」、まちの中心に位置する 7 層吹き抜け空間「(仮称)ナレッジプラザ」や低層基壇部屋上にある緑豊かな「(仮称)屋上庭園」など、多様なニーズに応えるイベントプロモーションスペースを整備します。
- ・ これらのスペースを活用して、まちの風物詩となるお祭りやイベントを TMO が主体となり取組んでいくほか、外部利用を含め、日常的なイベントを定期的実施していくことにより、日々足を運びたくなる、活気あふれるまちを育てていきます。
- ・ また、企業や来街者など幅広い方々の「自己表現・発表の場」として活用していただくことにより、新たな才能を発掘し、このまちから新しい文化・芸術を発信していきます。



ナレッジプラザ



大阪北口広場



屋上庭園

シンボル建物



3. 新たな情報発信拠点としての街メディア事業の取組み

- ・ 継続的なタウンマネジメント活動推進のための枠組みとして、まちの活性化に資する事業の財源に充当することを目的に、まちの公開スペースを活用した「街メディア事業」に取り組めます。
- ・ 具体的には、幅広いコミュニケーション展開を可能にするために、複数のバナーフラッグをはじめ、壁面広告や柱巻き広告、デジタルサイネージ広告など、まち全体を網羅するこ

とのできる約 20 種類の街メディアを整備する予定です。

- ・ まちにメディアを取り込むにあたってはデザインに配慮し、水と緑があふれる自然豊かな環境と街メディアとの調和により、統一感のあるデザインと賑わいある街並みを形成し、時間を忘れてまち歩きを楽しめる空間を演出していきます。
- ・ さまざまな企業や人々の新たな「情報発信の場」として活用していただくことにより、大阪の新たな玄関口に相応しい、魅力あふれるまちを目指していきます。



A ブロック南東角



賑わい軸



都市回廊

以 上